

都道府県番号	4 1
都道府県名	佐賀県

【 】

学校名及び規模

学校名	鹿島市立明倫小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	26
児童数	88	97	96	93	104	105	4	587	

研究の概要

(1) 研究主題

ゆたかな生活を切り拓く学力の形成
～みつめ・動き・高め合う明倫っ子をめざして～

(2) 研究主題設定の趣旨

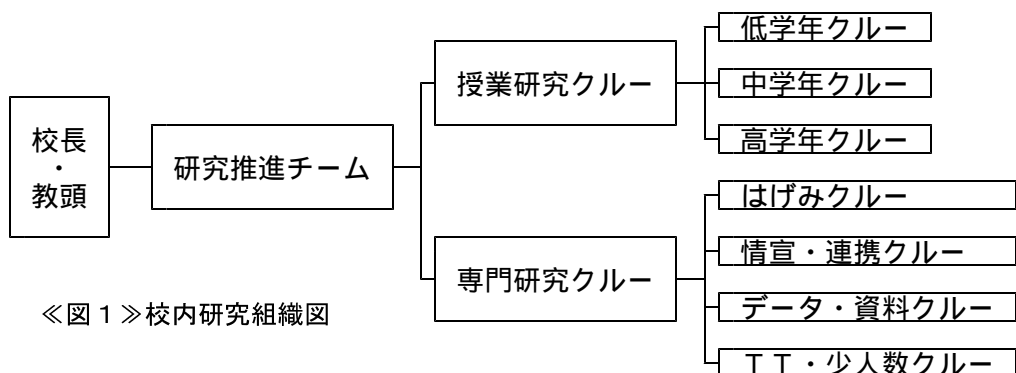
私たちは、子どもの「生活」を、衣・食・住という物や消費の豊かさを中心とした概念ではなく、興味・関心や学習欲求を充足させるという、生き方や自己存在の豊かさの概念としてとらえ、様々な学びと経験を通して自らの生活をよりゆたかに切り拓いていくことができる力を、すべての子どもに獲得してほしいと願っている。

これからの教育には、文化遺産をただ教え込む教育ではなく、これからの人生と社会を創造していける教育が強く求められる。自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力(=問題解決力・思考力・判断力・表現力)が「21世紀に通用する確かな学力」の中核となる。

本校では、明倫の子どもに「自ら進む方向をみつめ、自ら動き、級友と高め合い、よりよい自己へと変容していくことに楽しさや喜びを感じ、学ぶことに充実感や達成感を見出してほしい」という願いから「みつめ・動き・高め合う子どもの育成」(=問題解決の力をもった子どもの育成)を学校教育目標に定めている。日々の取組を通して、子どもや保護者、地域の期待や信頼にさらに応えられる学校へと近づいていきたい。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

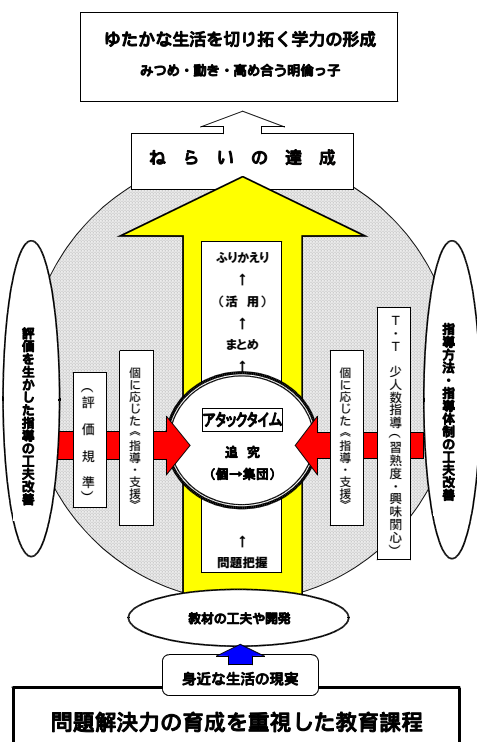


《図1》校内研究組織図

T Tや少人数指導の事前の打ち合わせ 月曜日と金曜日の週2回
(授業研究クルー) 放課後に同学年担任全員とT T、少人数指導担当者算数の指導計画の立案や教材作成

専門研究クルー 主に夏季休業などの長期休業を利用し実施

(2) 研究の実際
 研究の全体構想「ゆたかな生活を切り拓く学力」を、子どもが個性を發揮しながら、自発的・能動的・協同的に学習対象に関わりながら、創造的に学びのよさ(価値)に気づいていく「みつめ・動き・高め合う、問題解決力」ととらえ、今年度は算数科を中心に取り組んでいる。

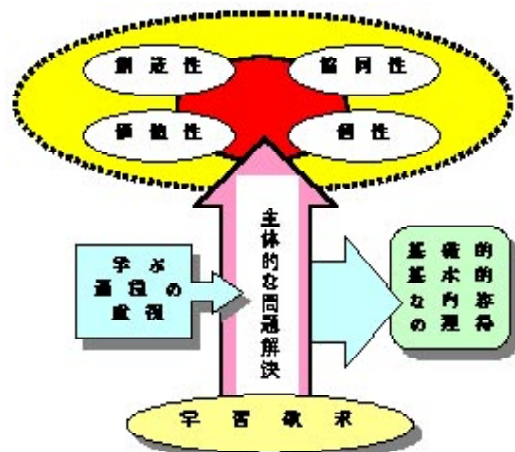


《図2》全体構想図

かかわりを実感しながら
 自分を「みつめ」
 学びのよさに気づく意味ある学び
 【価値性】

自分らしさを發揮しながら
 主体的に「動き」
 新たな自分を発見する学び
 【個性】

友達と共に
 「高め合う」喜びを感じながら
 生活や文化を創造する学び
 【協同性】【創造性】



《図3》豊かな生活を切り拓く学び

評価を生かした指導の工夫改善
 本校では 図2 のように三つの柱から研究を進めているが、本稿では評価に
 ばり記述する。

ア 本年度の数値目標(単位%)

	低学年	中学年	高学年
先生と一緒に問題解決ができる	60	20	10
友達と一緒に問題解決ができる	30	50	40
自分一人で問題解決ができる	10	30	50

イ 学校教育目標との関連を図った評価規準・年間指導計画の作成
 <作成例>5年・「面積」

単元の目標

主体的な問題解決を通して、平行四辺形や三角形の面積の求め方を、既習の面積の求め方をもとに考え、理解するとともに、それらの面積を正しく求め、学習したことを活用し、進んで生活に生かそうとする。

単元の評価規準

【みつめる力】

平行四辺形や三角形の面積の求め方に興味・関心をもち、学習の問題や自分の課題をつかんで、関連のある日常生活の場面をとらえようとする。

【動く力】

既習の内容をもとにして、平行四辺形や三角形の面積の求め方を考え、自分の考えを伝え、他の考えと比べ、よりよい考えを導き出しながら、問題の解決にあたるようとする。

【高め合った力】

平行四辺形や三角形の面積の求め方を理解して、面積を求めることができ、学習したことを深めたり、広げたりしながら、これからの自分の生活に生かそうとする。

ウ 単元における評価

(ア) はじめ「診断的な評価」

- ・毎週水曜日「はげみ学習」、朝の時間、算数の時間を弾力的に利用する。
- ・単元の系統性を考え、既習事項を中心に未習事項も含めた問題を作成し実施する。
- ・知識・理解や表現・処理を測る問題だけではなく、数学的な考え方や自分の考えを説明するような問題や子どもの興味・関心をさぐる問題も設定し、レディネスを把握する。
- ・診断後に練習問題に取り組みせ、レディネスの調整を図る。

(イ) なか「形成的な評価」

- ・毎時間の一つ一つの子どもの見とりそのものが形成的な評価である。授業中は観察を中心に、授業後は子どものノートやワークシートに目を通し、一人一人の子どもの学習状況を把握する。取組のよい点を認め、修正点を励ますなどの声かけやコメントを大切にする。
- ・学習後の自己評価（ふりかえり）を大切にし、子ども自身がめあてに対する自分の取組を、算数日記として感想で表したり設定された観点について等の記号で記入したりする。
- ・授業中の子どもの様子を積極的に話題にしたり、授業研究クルーでの話し合いで情報交換したりしながら、次時の指導に生かせるように計画の修正を行う。
- ・その日に学習したことを家で復習することができる宿題（ドリルやプリント）を実施し、家庭学習と学校での学習の関連を強める。
- ・習熟度別学習のコース選択や小単元における学習状況を把握するために、単元途中で形成的な評価問題を作成し実施する。その際、これまでの学習の定着をみるために思考・判断、表現の力まで把握できるように配慮する。
- ・単元終末における補充的な学習や発展的な学習に入る前に形成的な評価問題を作成し、なるべく子ども自身が自分に合ったコースを選択できるようにする。適切に選択できていない場合は、子どもの考えをできるだけ尊重しながら個別に指導する。

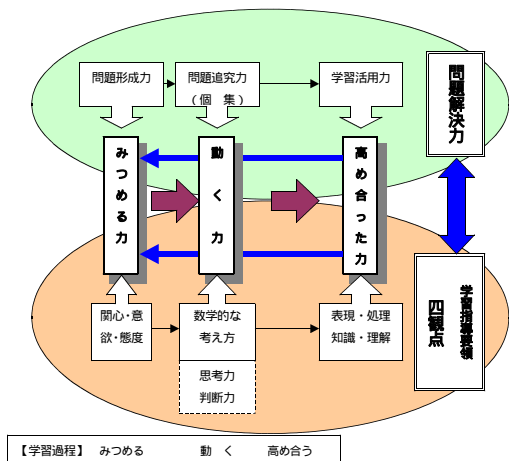
(ウ) 終わり「総括的な評価」

- ・評価規準をもとに、これまで評価し記録してきたことをまとめて観点別に評価する。
- ・単元ごとにペーパーテストを実施し、学習内容の定着状況を見る。必要に応じて全体または個別に補足的に指導をする。
- ・年度末に全学年で学力テスト（CRT）を実施する。前年度と比較検討することにより来年度の課題を明確にし、共通理解を図ったうえで重点的な指導が展開できるようにする。

(3) 研究の成果と課題

成果

- ・意識調査の結果の一部 図5 から、学習に対する関心・意欲・態度や学習の仕方や自ら学び自ら考えるといった内容において若干ではあるが向上していることがわかる。

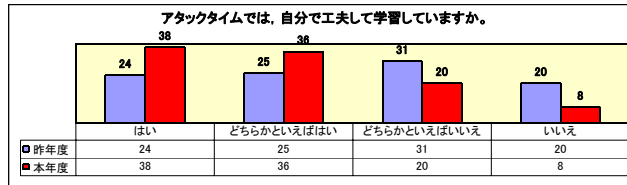
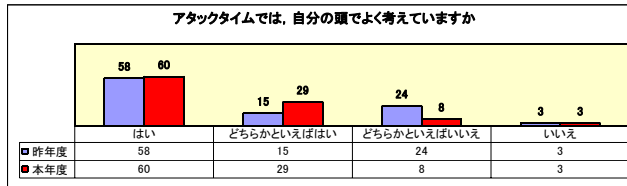
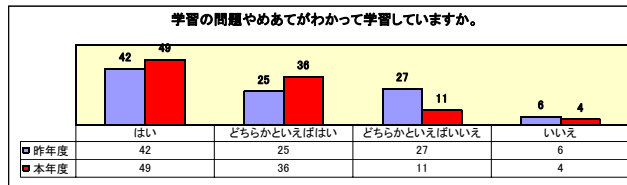
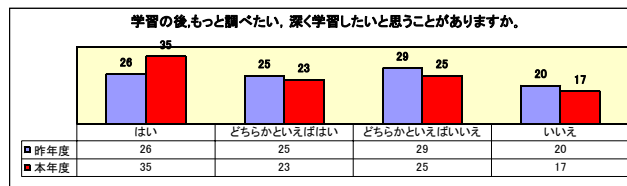
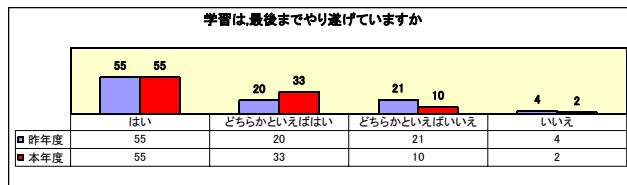
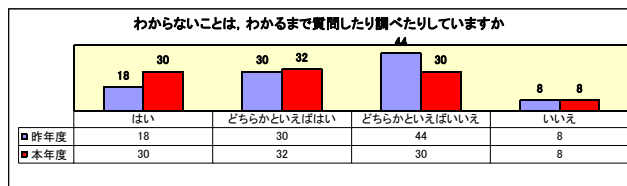


《図4》学校教育目標・問題解決力・4観点の関連

- どの学年も問題解決の中核となるアタックタイムの取組が充実してきており、子どもと算数との関わりが前に増して強くなってきた。真剣に落ち着いて考え、自力解決をしたり、集団解決をしたりすることで、学習の仕方が定着してきている。
 - 複数の指導者による個を大切にしたいきめ細かい指導や算数的な活動を繰り返し取り入れてきた結果として、算数が好きになる子どもが増え、わかる喜びやできる喜び、算数の不思議さやよさを感じる子どもが少しずつ増えてきている。
 - 市販のテストの結果の一部をみると、学年や観点により違いは見られるものの、全体的に全国平均よりも学年平均が上回っているところが多い。市販のテストだけでは比較できるものではないが、少なくとも学年での算数の取組や、子どもの問題解決学習の結果として表れてきているものだろう。今回は診断結果がまだ届いていなかったために検討することができなかったが、昨年度と本年度の学力テスト(CRT)の結果を比較して、成果と課題が一層明確になると考えている。
- (教師の側から)
- 一人の教師による実践から、学年又は学年グループによる協同の取組や指導体制により、日々の教材研究と授業をもっと大切にしようとする意識が強まり、共に知恵を出し合い高め合う実践力が高まってきた。また、一人一人の子どもの学習状況を以前に増して積極的に見とり、指導に生かそうとする意識が高まってきた。
 - 子ども一人一人に学力をつけようとする情熱と学力をつけていくための教師の力量の大きさを再認識することができた。これからも、本校の子どもに真の学力向上をといった「志」をもって、教師集団が一丸となり取り組んでいきたい。

課題

- 子どもが学習の主体となった自ら学び自ら考える問題解決力を更に向上させるための手立ての確立(思考力・判断力・表現力を向上させるための手立ての確立)
- 学習と生活との結びつきを更に強め、子どもの学習欲求と学習価値をより高める教材の開発
- 学習グループの効果的な編成のあり方と個に応じたきめ細かい指導力の向上
- より積極的に明確な情報公開と保護者との連携の強化(説明責任・結果責任への対応)



《図5》学習に対する子どもの意識の変容 (一部抜粋)
 <数値は全て全校の平均を%で表示>

- (4) 研究成果の普及の方策
年数回の公開授業研究会の開催
(全学年授業公開・提案授業、授業研究会、講演会等)
鹿島市学力向上推進委員会及び各種研修会や発表会での実践発表

- ~~~~~
- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無
- ~~~~~

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

学校の教育目標として子どもに育てたい力を教科指導にも位置づけ、評価の4観点との関連を図りながら、診断的評価、形成的評価、総括的評価の工夫を行っている。